

- 2、3面【特集】第9回造園技術フォーラム 各発表及び講評の概要紹介  
関東・甲信、北陸、中部、近畿、日本造園学会から5つの発表
- 4面【ふるさと自慢】山形県 吉田 有希（内外緑化㈱）  
おいしいものが満載 芋煮づくりは“バックホー”
- 【緑滴】この仕事をしてきてよかった 内田 由紀子（株彦島造園）

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。



総支部長・支部長合同会議開く

総支部長・支部長合同会議を10月8日、14時から開催した。

冒頭、藤巻司郎会長が挨拶。参加者や開催準備に当たった中部総支部、愛知県支部へのお礼の後、「労務費単価の改善や現場管理比率等の引き上げ、ダンピング対策の強化などの措置が講じられるようになり、公共事業費の維持・確保とも相まって、ようやく経営環境が改善しつつあると感じています。これも日造協が長年にわたり取り組んできた要望・提言活動が、一定の成果を得たものと受け止めています。この好機に全国組織である日造協の果たすべき役割をしっかりと心にとどめ、日造協の活動に全力を注いでまいります。とりわけ、「担い手3法」に対応し、担い手の育成・確保の行動計画の立案、若手入職者の確保、技術者の育成、安全衛生の徹底などの諸課題に取り組む、造園建設業の更なる発展と安全で緑豊かな美しい国土づくりに、貢献していきたいと考えています。皆様からの力強いご協力をお願いします」と述べた。

その後、大島嘉七愛知県支部長挨拶の後、議題に入り、財政・運営中期計画、会費徴収規程等、造園安全衛生管理の手引きの販売促進等による支部活動への助

成、担い手3法と人材育成確保、社会保険等未加入対策説明会の開催、「緑地育成工事」への対応検討状況、「公園・緑地樹木剪定ハンドブック」の発刊と「みどりの発生材リサイクルガイドライン」の公開、「造園用シットハーネス」の開発状況、要望・提言活動、全国造園デザインコンクール、職長・安全衛生教育講師養成、アンタルヤ国際園芸博覧会開催等への国際協力、資格関係の年間スケジュール、女性就業促進検討特別部会の活動状況、東日本大震災対策本部の復興支援本部への移行及び緑の再生等の復興事業への支援活動方針、日本造園企業年金基金の設立、総支部・支部交流会の開催、日造協の年間スケジュールについて、報告が行われた。

その後、総支部・支部からの報告事項、提案事項についての意見交換、「造園業界の持続的な発展のために」をテーマに、会員拡大プロジェクトや街路樹剪定士受験資格要件の改定などについて討議を行った。

また、18時から「花と緑のつどい」を開催。大村秀章愛知県知事、吉田一平長久手市長を始め、多くのご来賓の方々が出席され、盛会となった。

## 樹林

日造協理事、グリーン産業株式会社 常務取締役  
磯部 久人



### 緑のインフラを後世に

私は新潟県の北部に位置する村上市に住んでいます。

毎日の通勤で利用している新潟市の大動脈であるバイパスでは、中央分離帯の低木が撤去されコンクリートでシールするための工事が進められ、道路法面の雑草は伸び放題の状況です。

また、近所の公園からは、危険だとの理由で遊具が撤去、維持費の削減から噴水が止まり、花壇の花も少なくなり寂しい公園になっています。

周辺部の耕作地も少子高齢化社会の影響で放置されてます、里山や植林された美林も手入れがされずに荒れ放題です。

新潟県は南北に海岸線が300km有り、そのほとんどが黒松、赤松ですが松食いで壊滅的な状況で白砂青松の面影は微塵も有りません。

◆  
このように、地方における緑のインフラ整備としての予算は減少の一途をたどり、危機的とも言える状態です。

私は田舎に生まれ、田舎で育ち今も

住んでいます。「国破れて山河有」「花鳥風月」故郷を思い、心に安らぎ覚える我々日本人にとって、生活環境、景観を作っている緑のインフラは、必要不可欠なものです。

とりわけ急激な人口減少、少子高齢化、巨大災害への対応。橋やトンネル等のインフラの老朽化への対応も大変重要問題です。国も地方創生の部署を設立したり、国土交通省はコンパクト＋ネットワークとして、コンパクトで特色のある都市を形成、機能的に補完しながら、それをネットワークで有機的に連絡させ、対流促進型国土を形成しようとしています。

◆  
我々も街づくりに携わる一員として水と緑のネットワークを活かし、自然環境、景観的にも素晴らしい国土を作っていかなければなりません。

そして、何よりも『緑のインフラを後世に』子供や孫に残すことの出来る持続可能な社会づくりが大切だと思います。

## 優秀施工者国土交通大臣顕彰

### 「建設マスター」6氏、新設「ジュニアマスター」3氏受賞



優秀施工者、青年優秀施工者顕彰受賞者と藤巻会長での記念撮影

平成27年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典が10月9日、東京都港区のメルパルクホールで行われた。

日造協からは、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を原達也氏（48）安行園芸㈱（埼玉県川口市）、齊藤典之氏（41）㈱生光園（千葉県袖ヶ浦市）、野村義幸氏（60）㈱長生園（新潟県新潟市）、青島廣高氏（58）㈱鈴木庭園（京都府京都市）、吉田千佳氏（40）植彌加藤造園㈱（京都府京都市）、黒木康弘氏（55）九州林産㈱（大分県大分市）の6氏が受賞した。

今年度から次世代の建設現場の担い手

の確保・育成などを目的とし、今後さらなる活躍が期待される青年技能者を対象に、青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰（建設ジュニアマスター）が創設され、110名が受賞。日造協から吹上笑美氏（31）㈱多々良造園（山口県山口市）、井出隆一氏（32）㈱庭建（長崎県佐世保市）、池田広樹氏（39）㈱光林緑化（鹿児島県鹿児島市）の3氏が受賞した。

顕彰式典では、406名の建設マスターを代表して、吉田千佳さん（写真右）が壇上に上がり、賞状を拝受した。



## 都市緑化キャンペーン2015

有楽町駅前  
オープニングセレモニー開催



都市緑化キャンペーン オープニングセレモニーで壇上に立つ伊藤会長（中央）

「都市緑化キャンペーン2015」が10月9日、東京都千代田区の有楽町駅前広場で行われた。キャンペーンは、身近な場所に緑があることの大切さや、その緑を守り、育てる取り組みへの市民の参加・協力得ることを目的として、毎年10月の都市緑化月間中に、国土交通省、全国知事会等の後援、都市緑化推進運動協力

会の主催で実施している。

オープニングセレモニーでは、再来年3月25日から6月4日まで、神奈川県横浜市を会場に行われる第33回全国都市緑化よこはまフェアの紹介が行われ、その後、伊藤英昌都市緑化推進運動協力会会長をはじめ、日本さくらの女王ら5氏が花鉢を配布、都市緑化をPRした。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！





会場のようす

第9回造園技術フォーラムは10月7日、全国都市緑化フェア開催地である愛知県名古屋市のホテルガーデンパレスで開催した。本号では発表の概要を紹介します。



藤巻会長



卯之原委員長

フォーラムは冒頭、藤巻会長が挨拶。「全国各地から多数のご参加をいただきありがとうございます。本日は日本造園学会からお二人の先生方にもご参画いただき御礼申し上げます。私たちが携わる造園工事は多様さが特徴であり、植物、石などの自然素材、コンクリートなどの多様な材料を用い、気象条件をはじめとする諸条件に応じたさまざまな空間づくりを行っています。このフォーラムはこうした現場で工夫し、高めてきたノウハウの共有を図るため平成9年から実施しています。開催に当たっては、技術委員会、中部総支部、愛知県支部の皆様にご尽力いただきました。参加者の皆様は、本日の成果をぜひご活用いただき、よりよい環境の創造・保全を図っていただきたい」と述べ、4

総支部と日本造園学会からの発表、質疑応答、講評が行われた。

また、閉会にあたっては、卯之原昇技術委員長が、「技術フォーラムは有意義な情報交換の場として、毎年多くの方々にお集まりいただいています。本日も貴重なお話を皆様からいただきました。情報は、使っていくことが大事、これからのお仕事にお役立ていただきたい」と述べた。

発表会後は、中部総支部主催の交流会を開催。大島嘉七中部総支部長の挨拶の後、(公社)日本造園学会から、藤原宣夫大阪府立大学大学院教授が挨拶、丸山宏名城大学農学部教授が乾杯を発声、参加者の情報交換の場となった。閉会挨拶は水谷春海三重県支部長が行い、散会した。



大島総支部長



水谷支部長

## 二子玉川再開発事業(Ⅱa街区)における地域の生命をつなぐ「エコミュージアム」としてのランドスケープ計画

関東・甲信総支部 東京都  
渡邊 敬太(箱根植木株)



生き物の生息空間「ビオトープ」が近年各地で創出されていますが、今回ご紹介するのは「エコミュージアム」として、商業施設の屋上約6,000㎡すべてを自然的な空間として整備したものです。エコミュージアムは、地域の自然・文化や生活様式を含めた環境を地域コミュニティが保存・展示・活用・研究していく考え方で、地域住民がエコミュージアムを運営することにより、地域を見直し、発展させることを目的としています。

Ⅱa街区のコンセプトは、貴重な自然が残る国分寺崖線とアユが遡上するまでになった多摩川とをつなぐ生命基盤の構築と、二子多摩川の自然や文化を保全・育成する場の整備です。

街区は、敷地面積28,083㎡で、地下2階、地上30階建、店舗や事務所のほか、ホテルやシネコンなどが設けられ、2階建の塔屋屋上をはじめ、2階から5階まで大規模な人工地盤緑化となっており、緑化面積は8,134㎡となっています。

1階は崖線の森、2階はリボンストリート、3階は武蔵野台地の農耕文化と里山、4階は多摩川のワンド、5階は多摩川の中・下流域をテーマにし、それぞれ特徴的な空間となっています。

エコミュージアムとして、創出した空間は、生物多様性の価値を定量評価する

JHEP 認証で、最高ランクAAAの評価、環境に配慮した街づくりに対するLEED-ND 認証で、日本初のゴールド予備認証を取得するなど、高い評価を得ています。

施工は、関係者の完成イメージの共有、建築工事で発生した多摩川の石の保全、環境サイン、多摩川流域の原風景の再生、地域性種苗を用いた緑化をポイントに、地域に根付いたリアルな空間づくりを重視しました。

このため再現場所のロケハンとして、多摩川河岸60kmを歩き、発生材は舗装材やフトンガゴなどに利用し、生態系や子ども向け解説なども充実させた環境サインにも石の標本として利用しました。

特に地域性種苗は、118地点で採取、66種を生産し、16の植生タイプでユニットを作成し、このユニットを現場に割付、植栽することで、植生を再現しました。

エコミュージアムとして、今後いかに管理していくかが課題であり、緑のコンシェルジュとして常駐管理を行います。が、作業性だけでなく、来訪者が話しかけやすいなど、服装にまで配慮し、菜園での課外授業、環境教育などを実施し、地域の方々が活動ができるようになったときがエコミュージアムの完成との思いで、現在も管理を行っています。



多摩川のワンド(4階部分)

# 第9回 造園技術 4 総支部と学会から発表

## 金沢城公園整備工事 庭園1工区 (玉泉院丸庭園滝石組)

北陸総支部 石川県

笠井 順二(株庭芸社)



金沢城には玉泉院丸庭園と兼六園という大きな庭園がありましたが、玉泉院丸庭園は、明治期に廃絶され、平成20年の県立体育館移転に伴う発掘調査で、再び姿を現しました。

造園に携わる者として、一度はみたいと発掘調査説明会に参加し、色紙短冊積み石垣の意匠を凝らした石積みに驚き、これが庭園の借景として作られたことに加賀藩の財力と庭園文化レベルの高さを思い知らされました。そして、自分が工事を行うとは夢にも思いませんでした。

工事は、造成工930㎡、張芝工365㎡、滝石組一式、石組護岸16mで、北陸新幹線の開通に間に合わせるため、平成25年3月から翌3月までの工事でした。

これだけ大規模な滝づくりの経験はなく、毛越寺、水前寺公園、越前朝倉氏庭園などの名園を再訪するとともに、今回の滝の流れ全体と4段の滝の平面図、パースを作成し、仕上がり方をシミュレーションして工事に取り掛かりました。

滝口の施工は、最大傾斜30度にもなる斜面の遺構に1.5mの盛土を行い、その上に滝石組を施工するもので、長雨などによる盛土の崩落が危惧され、多くの同業者からも危険性を指摘されました。

このため、当初設計のセメント系固形剤による地盤改良は、人力での滝石組や

植栽工事が困難だと予測し、良質の粘土による盛土に変更してもらい、崩落の主要因となる雨水、湧水の排水不良に対し、現状の「みずみち」を温存し、かつ枝状に排水路を設け、盛土を行いました。

粘土は、数種類を吟味し、小松瓦の原料にもなっている婦中産粘土を粘着力、せん断抵抗角、水の浄化能力の面から選択。30cmごとに転圧によるまきだしを繰り返し、盛土補強材を布設することで、崩落防止を図りました。

滝石組には、遺構に忠実、造園修景に留意の2つの要望があり、石材カルテを基にした戸室石30tを含む70tの石材調達では、福浦石の確保に苦労しました。

高低差7m、長さ約20mの滝石組は、上段、下段に分けて施工することにし、遺構に沿って要の石について根入れを十分に言い、親石の役目も持たせました。

滝周辺の植栽は、金沢城の植生に配慮し、モミジ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、サカキ、アオキ等を選択し、既存の森との連続性を考慮しました。

出来上がりは、職人として欠点ばかりが気になりますが、丁寧な仕事だけは十分に心がけ、大変名誉な仕事をさせていただいたことに感謝しています。



完成した滝石組

## 街路樹剪定士による 街路樹簡易診断

中部総支部 愛知県

寺本 正保(岩間造園株)



高度経済成長期に整備された社会資本の老朽化による事故が数多く報告される中、街路樹は、景観形成や緑陰の提供、大気浄化、ヒートアイランド現象の緩和などのさまざまな機能を有しているものの台風等で倒れ、交通障害や人的傷害を引き起こす危険性を有しています。

平成21年には、国の天災で通常点検で外観の異常はなく賠償責任はないとの主張に対し、ベッコウタケが生え、腐朽して倒木の危険性があっても関わらず放置したと、管理瑕疵の判決が出ました。

愛知県でも平成25年に台風により、ケヤキの街路樹が倒れ、倒木したケヤキにはキノコが付着、伐採後に根株の腐朽が判明。県は100%賠償する方向で検討し、同じ路線の93本を診断、56本を精密診断し、結果7本を撤去しました。

このため県は亀裂や空洞などの外観から判断できる構造的な欠陥への対応を見直し、腐朽病による倒木事故を未然に防ぐ簡易診断を実施することにしました。しかし、県内の樹木医等の不足や費用的な問題から、平成25年度時点で563名おり、街路樹の病害虫の基礎知識、診断能力もある街路樹剪定士が簡易診断を実施することになりました。

県道の街路樹は85,000本で、平成26

年度にまず3分の1を診断するため、平成26年3月に「街路樹簡易診断マニュアル(案)」を策定。街路樹剪定士が実施することが、県道路施設維持管理業務委託の特記仕様書に明記されました。

診断対象は、倒木等によって障害を起こす可能性が高いと考えられる樹高5m以上の高木で、街路樹の管理業務受注業者に県内3箇所での診断のための研修会を開催し、腐朽病発見のポイントや診断様式記入方法などについて解説しました。

診断は、目視基本の簡易診断Aと、Aで欠陥があった樹木を対象に診断する簡易診断Bで構成し、Bでは各部位ごとの欠陥を診断・記録し、腐朽確認のため、根株周囲への鋼棒貫入。この結果、キノコ(ベッコウタケ、コフキタケ)有、鋼棒貫入異常有、開口空洞3分の1以上のいずれかに該当する場合、監督員の指示で伐採することとしました。

今後も毎年全数の3分の1ずつ簡易診断を実施することになっており、伐採の判断が困難なものは、樹木医と街路樹剪定士による詳細診断を行います。簡易診断で危険木の見落としがないよう診断能力の向上が必要であります。



危険木診断により伐採した街路樹



# フォーラム開く

## さまざまな技術を学ぶ

### 「河西緩衝緑地」指定管理への取り組み

近畿総支部 和歌山県

井内 優（株井内屋種苗園）



河西緩衝緑地は5つの緑地公園の総称で、工業地域と住居地域を緑地帯で分離し、産業活動と居住生活の両立を図るため、昭和56年に和歌山地域公害防止計画に建設が盛り込まれ、翌年都市計画決定、事業に着手。平成3年から順次供用を開始し、平成17年の東松江緑地完成で、総面積約52万㎡、緑地延長5.4kmの広大な緑地となりました。

しかし、当初整備から20年余は、単に樹木を成長させることが良いとされ、緑地の多様な機能への理解は得られず、自然淘汰で枯死する樹木もありました。

このため、日造協のメンバーが手入れに加わることで、高木、中木、低木、地被それぞれの役割を踏まえた剪定を行うなどし、季節感のある緑地によりがえらせることができました。

それでも全体の利用頻度が低いことから、高めるための検討を重ね、マラソンコースとしての利用を考案。体育教員の方々に意見を伺い、剪定やコースの案内板を設置するなどし、安心・安全なマラソンコースとなり、各学校に利用をお願いするなどした結果、今では市内の9割の学校が利用し、昨年3月にはハイブリッドターフのサッカー場が完成し、関西1次リーグのアルテリーヴォ和歌山の練習拠点にもなっています。

こうして蘇った緑地は、支部会員の仕事にもつながっています。他地域でも造園関連事業が減少するなどし、会員減が危惧されているようですが、こうした取り組みは会員の活性化にも役立ちます。

### 講評

（公社）日本造園学会

丸山 宏（名城大学農学部教授）



どの発表も大変興味深く、講評というより、感想になりますが、順に述べたいと思います。

「二子多摩川」は、大変素晴らしい事例ですが、最終的に地域の人に任せたいと言うことに、私は賛成しません。原生林などは自然の遷移に任せるべきですが、人の手が入ったものは、里山や二次林なども含め、きちんと管理しなければならず、ビオトープなども自然の遷移があり、当初目的異なってくるため、専門家による管理が不可欠です。また専門家が関わるからこそ、私たちが重要な仕事をしていることを知って貰え、ミティゲーションなど、今後もこうしたプロが必要であることを示した方がいいと思います。

「玉泉院丸庭園」は現地を訪れたことや、私が名古屋城の庭園復元に携わっていることもあり、材料が手に入らない苦労なども身にしみて感じており、建築では古材のストックが行われているので、造園もそうしたものがあっていいと思っています。遺構の保護は、覆土などさまざまな方法がありますが、子々孫々

日造協は、街路樹剪定士や植栽基盤診断士などの資格制度を実施しているほか、さまざまな情報の提供、研修等を実施しており、我々に必要なものです。

また、技術の継承が大問題ですが、残念なことに和歌山県は街路樹は大きくすることが良いと無剪定を基本とし、剪定は建築限界の対応が主体で、経験の場に限られ、緩衝緑地の維持管理が貴重な体験の場にもなっています。

こうしたことから、和歌山県内の日造協、県造協、造園連の有志で、平成21年にNPO法人和歌山県造園技術センターを設立し、各会が事務所経費の一部を捻出し、行政と市民の中間に立ったみどりの専門家として、より美しい県土創造を推進するため、緑化技術の発展充実や人材育成のためのセミナーの開催、みどりに関する普及啓発活動を行うとともに、関係諸機関に提言を行っています。

後進の育成、造園技術の継承なしに、業界の存続は有り得ませんが、セミナーなどを開催するにも経費が掛かります。業界としてのまとまった取り組みによる合理化、さまざまな活動の実施が、支部の継続をはじめ、地域の発展につながっていくとのものと考え、同じ状況を抱えた地域などの参考になればと発表させていただきました。



5つの緑地からなる「河西緩衝緑地」

に残すことが大事で、今後庭園の保全が増してくる筈であり、造園の仕事になります。京都の造園はお寺の管理などで仕事と技術が継承されてきました。和歌山のお話しの技術の継承がありましたが、私も文化庁の審議会で、人材を守る、つくるところから考えなければならないと言っています。入札で安かろう悪かろうではダメ。専門家が専門能力を発揮できる社会にしていかなければなりません。

「街路樹診断」は、人間の側からの発想ですが、街路樹の側から考えることも大切で、樹木が健全に育つには植栽基盤が何より重要です。こうしたことをもっと行政に発言し、狭い場所に高木を植えるのはおかしいと言う必要もあるでしょうし、久屋大通りの街路樹も二度切りしていないため、腐りが入ってしまったものもみられます。街路樹診断も重要ですが、腐るから診断しなければならないくなります。基本的なところをきちんとやる仕組みにしていかなければならないと思います。

「緩衝緑地」については、緑地の適切な管理を行い、さまざまな機能を発揮するようになったことは本当に素晴らしいことだと思います。後半にNPOの話が出てきましたが、行政の入札による安いものを良しとするあり方は、間違いで、NPOをつくるなどして、専門家の活動

### 復興と地域再生の技術～技術報告集2015より～

（公社）日本造園学会 理事

藤原 宣夫（大阪府立大学大学院教授）



「造園技術報告集」の編集委員長であるため、報告集を題材に発表する命題をいただきました。

報告集は、「作品選集」と交互の隔年発行ですが、現場の技術が少ないことが課題です。皆さんからの投稿をお待ちしています。

今回の報告集では、「復興と地域再生の技術」という特集テーマを設け、6編の寄稿論説と6編の投稿技術報告を収録しています。この場ですべてを紹介することはできませんので、ここでは東日本大震災を振り返り、自然重視の震災復興のあり方を考えてみたいと思います。そして最後に寄稿論文のひとつを紹介します。

2011年3月11日14時46分、三陸沖を震源として発生した地震は、観測史上国内最大のマグニチュード9.0で、宮城県栗原市の震度7をはじめ、過去にない広範囲で強い揺れを観測しました。地震に伴い津波が発生し、大船渡市で16.7mの非常に高い津波が観測されるなど、岩手、宮城、福島3県沿岸部に甚大な被害をもたらしました。

被害統計はいまだに確定していませんが、1年後の時点で、阪神・淡路大震災と東日本大震災の人的・物的被害の比較を行うと、死者数は6,434人に対し、15,854人と阪神・淡路大震災をはるかに上回っています。

また、東日本大震災の死因の90%以上が溺死で、関東大震災は焼死が90%、阪神・淡路大震災は70%以上が建物倒壊によるものとされ、東日本大震災の人的被害は津波が最大要因といえます。

諸所の物的被害がありますが、ライフラインで、水道、電気、ガスなどがよく取り上げられる中、下水道の被害も深刻で、上水道が復旧したものの時間の掛かる下水道が復旧せず、汚水の受け入れが間に合わない事態も生じました。

また、海岸林は、青森から千葉まで広く津波により浸水し、流失、水没、倒伏などの被害を受け、総浸水面積約3,600haとなっています。

仙台市若林区の海岸約9kmにわたる幅500m程の松林帯は、防潮林として江戸時代にクロマツの植林が行われ、近年はアカマツが自然侵入し、混交林となっていました。津波では、細い松が幹折れし、地下水位が高く根を深く張っていない樹木が流失し、クロマツの大径木が多く残存していることが分かりました。

伊勢湾台風で、貯木場の材木が市街地に流出し、被害を及ぼした記録がありますが、流失した樹木が家屋などの破壊の助長要因となったことも内陸部に残った流木から想像されます。

一方、残存した緑地が船舶などの漂流物を捕捉して、内陸部への流入を防いだことも明らかで、屋敷林（いぐね）による家屋被害の軽減や微高地などの地形に

より被害を免れたこともわかっています。

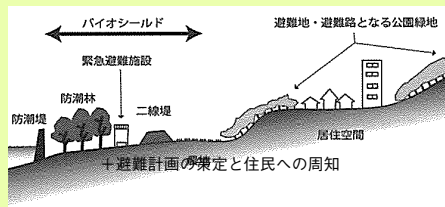
2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震は、インド洋に大津波を発生させ、14カ国で死者・行方不明者が228,000人を超えました。津波警報が各国に対して発せられたものの津波に対する歴史的な記憶を失っていた国はその重大さに気がつかず、マングローブなどの海岸林を大規模伐採した地域などで被害が大きくなったとされています。

こうしたことから2005年にカイロで開かれた被災地諸国の国際会議で12の原則からなる「カイロ原則」が採択され、早期警報システムの開設、建築のセットバック・ラインの設定と津波のエネルギーを吸収する自然の楯（バイオシールド）となる緑地帯設置が提唱されました。

日本でも、宮古市重茂の姉吉地区に「此処より下に家を建てるな」と刻まれた石碑があるなど、同様の戒めが各地にあったと考えられる中、防潮堤があれば大丈夫といった思い込みなどで、低地への居住が定着し、歴史的な記憶の喪失が被害を拡大したといわれています。一方で、いぐねで守られた住居や盛土の高速道路が二線堤となり、内陸部の被害を小さくするなど、バイオシールドが減災効果を果たしたことも分かってきています。

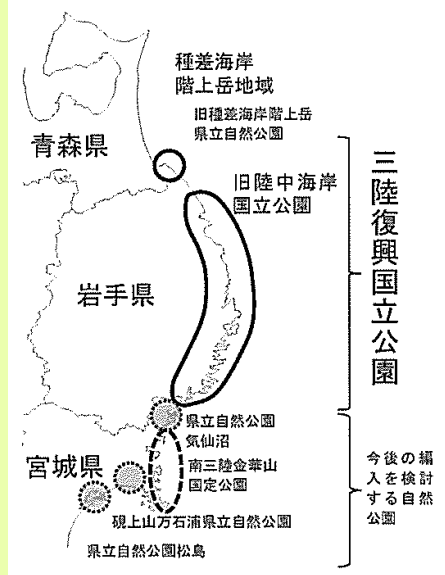
環境省は、震災の2ヵ月後に三陸地方の自然公園を再編し、災害時の避難地・避難路となるほか、観光の拠点として地域再生に役立てようと三陸復興国立公園を計画、2013年に新たな国立公園として決定されました。公園はバイオシールドとしての減災機能も有しており、地域の振興策として期待されます。

最後に、報告集に収録した嶋倉氏の「ふるさとの海岸風景再生のために」を紹介しますが、後ほど、お手元の報告集にじっくりと目を通し、その他の寄稿、投稿にもご活用いただければ幸いです。



#### 減災と多重防御のイメージ

- たとえ住居が全壊、流失しても命が守られる
- たとえ、住宅が浸水しても家財の流失、家屋の倒壊が免れる
- 多様な防災対策と避難対策の組み合わせ



#### 三陸復興国立公園のイメージ（環境省資料より）

の場とし、技術の継承、人材の育成を図り、一社では困難な行政への対応を行う取り組みは面白く、他の参考になると思います。森づくりについて、メンテナンスフリーでという方もありますが、前述の通り、人の手が入ったものは、人の管理が不可欠です。神戸市が最初に街路樹の無剪定を行いました、共同溝を設置し、植生基盤も充実させればもっといい

樹形になったかもしれませんね。名古屋城の庭園をはじめ、名勝庭園などでは実生木の扱いが問題にもなっています。長い間あまり手の入らなかった緩衝緑地でもこうした樹木に対応されたと思います。外来種が問題にもなっており、今後、維持管理がますます重要になる中、こうした今後の“肝”になるところにぜひ取り組んでいってほしいと思います。



ふるさと自慢

山形県

おいしいものが満載

芋煮づくりは「バックホー」

山形名物「日本一の芋煮会フェスティバル」の会場風景

食欲の秋。おいしいもの満載の山形の秋の味覚の一つが芋煮です。芋煮は地域により材料、味付けが異なりますが、ここ山形市では、里芋、牛肉、ネギなどの材料を醤油で味付けしたものが一般的です。

仲間と一緒に河原で芋煮を作って食べる芋煮会は、山形の秋の風物詩です。秋の訪れと共に各スーパーでは、芋煮の食材、道具など

をそろえた「芋煮会セット」が取り扱われ、友人同士、町内会、職場、遠足まで、ありとあらゆる団体が河原に繰り出し、我々がソウルフード、芋煮に舌鼓を打ちます。芋煮を味わった後は、残った汁にうどん、カレールーを入れ、芋煮カレーうどんを楽しむのも定番となっています。

また、毎年9月には馬見ヶ崎河川敷にて「日本一の芋煮会フェスティバル」が開催されます。直径6mの大鍋、その名も二代目鍋太郎で、里芋3トン、牛肉1.2トン、こんにゃく3,500枚、長ネギ3,500本など、地



フェスティバルでのひとこま  
産地消、山形産のおいしい食材を使用した芋煮、約3万食が振舞われます。6mもの大鍋、当然普通のお玉では調理できません。

そこで登場するのが、なんとバックホー。“バックホーで調理なんて・・・”と思われた皆さん、ご安心下さい。使用されるバックホーには、①現



バックホーで調理しているようす  
場で使用されたことのない新車、②グリースを落とし、かわりにバター等を使用、③バケットはステンレス製の芋煮専用特注品などの条件があるとのこと。芋煮の他、ステージでのイベントや屋台など、楽しみがいっぱいのフェスティバルです。

皆さんも、秋の山形にお越しの際は、ぜひ芋煮を味わってみて下さい。

吉田 有希（内外緑化株）



山形市では醤油での味付けが一般的で残り汁にうどんを入れるのも定番

### 事務局の動き

- 【9月】
- 1 (火) ・全国労働衛生週間準備期間 ～9/30
  - ・技術委員会（技術・技能部会）
  - 3 (木) ・運営会議
  - 8 (火) ・第32回全国都市緑化あいちフェア 花と緑の屋外出展コンテスト審査
  - 9 (水) ・総務委員会（広報活動部会）
  - 11 (金) ・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
  - 12 (土) ・第32回全国都市緑化あいちフェア開会式 ～11/8
  - 15 (火) ・総務委員会（経営環境改善部会）
  - ・アクションプログラム推進等特別委員会（会員拡大プロジェクトチーム WG）
  - 16 (水) ・富士教育訓練センター建替工事起工式
  - 20 (日) ・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）
  - 28 (月) ・第1回造園施工管理技術検定委員会
  - ・街路樹剪定士認定委員会
  - 29 (火) ・資格制度委員会
  - 30 (水) ・全国都市緑化祭記念祝賀会

- 【10月】
- 1 (木) ・都市緑化月間 ～10/31
  - ・全国労働衛生週間 ～10/7
  - ・全国都市緑化祭式典・記念植樹
  - 2 (金) ・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
  - 4 (日) ・都市景観の日
  - 5 (月) ・技術委員会（調査・開発部会）
  - 6 (火) ・植栽基盤診断士認定委員会
  - 7 (水) ・造園技術フォーラム、交流会
  - 8 (木) ・運営会議
  - ・総支部長・支部長合同会議
  - ・花と緑のつどい
  - 9 (金) ・都市緑化フェア視察

- ・都市緑化キャンペーン2015
- ・優秀施工者国土交通大臣顕彰式典
- 13 (火) ・技術委員会（安全部会）
- 15 (木) ・総務委員会（広報活動部会）
- 19 (月) ・AIPH総会等 ～10/23
- 21 (水) ・「屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」表彰式
- 23 (金) ・北陸総支部と北陸地方整備局との意見交換会
- 29 (火) ・「街路樹剪定士研修会」講師説明会の講師事前打ち合わせ
- 30 (金) ・都市緑化功労者表彰受賞者を祝う会
- ・「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

### 委員会等の活動

- 総務委員会（経営環境改善部会）  
みどりの企業年金への加入促進・活用方向について検討し、日造協の取り組み方向を取りまとめた。（9/15）
- 事業委員会（造園フェスティバル推進部会）  
10月をコア月としてフェスティバルを開催。10月2日現在で70会場での開催を予定。7会場に応援訪問（事業委員会委員・部会委員・事務局員）を行う。
- 資格制度委員会  
各検討チーム（街路樹剪定士・植栽基盤診断士・新資格制度）の進捗状況報告と検討課題について話し合った。（9/29）
- 国際委員会  
シェーンブルン宮殿日本庭園改修への協力として、国際委員会の山田委員を9月10日～16日まで現地へ派遣し、竹垣補修への協力を行った。

## 建退共に加加入の事業主の皆様へ

建退共制度の利用に当たっては、以下の①～⑦にご留意ください。

- ① 共済証紙の購入は、元請・下請を含めた**対象労働者と就労日数に応じた額を購入**してください。
- ② 公共工事・民間工事を問わず**就労日数に応じた共済証紙の貼付**を忘れずにお願いします。
- ③ 掛金の負担は、**全額事業主負担**となっております。
- ④ 被共済者**本人に共済証紙の貼付状況を確認**させてください。
- ⑤ 共済手帳に250日分貼り終えたら**すみやかに更新手続き**を行ってください。
- ⑥ 被共済者が事業所を退職したときは、**必ず共済手帳をお渡し**ください。
- ⑦ 被共済者が事業所の**代表者又は役員報酬を受けることになった場合は継続加入することは、できません。**



独立行政法人 勤労者退職金共済機構 〒170-8055東京都豊島区東池袋1丁目24番1号  
建設業退職金共済事業本部 TEL 03-6731-2866 FAX 03-6731-2895

建退共

検索

編集後記 先日、「第32回全国都市緑化あいちフェア」を視察させて頂きました。花の棚田「あいちの花百花繚乱」はとても華やかで、各企業・団体が出展された「あいちの庭」はどれも力作揃いでした。ご案内頂きました中部総支部、愛知県支部、そして愛知県造園建設業協会の皆様ありがとうございました。来年度は横浜市、再来年度は東京都八王子市の開催です！又、いよいよ来月は500号です。今までの「広報活動部会」の先人の方から受け継がれた結晶を是非ご期待下さい。



この仕事をしてきてよかった

内田 由紀子  
彦島 造園



私の生まれた街、山口県下関市についてご紹介したいと思います。

本州の最西端に位置する下関は、かつて交通の要所として栄えておりました。

また、日本の重大な局面に関わることが多く、特に関門海峡では、時代ごとに決戦が繰り広げられてきました。

源平合戦で入水された幼帝安德天皇を祀る赤間神宮では、毎年5月に先帝祭として祭礼があり豪華絢爛な外八文字道中の他、赤旗、白旗を掲げた船が海峡を通過する壇の浦の合戦の再現は勇壮で遠い昔を偲ばせています。

また、海峡の間に位置する巖流島では、宮本武蔵と佐々木小次郎の決戦がありました。

幕末には、長州と四カ国連合艦隊との戦い（馬関戦争）もあり、戦利品として持ち帰った長州砲がエッフェル塔の下にあり、以前パリに行った際、偶然見つけて驚きました。

馬関戦争後、高杉晋作の発議により殉国の志士の神霊を祀る招魂場を築き、桜山神社となり、吉田松陰



関門海峡



赤間神宮

を始め無名の者に至るまで身分制度を超え平等に祀られています。

この地で父の後を継ぎ20年、ご縁ある方々のお陰で今日まで来ることができました。

当社は、個人邸や公共工事、公園の管理等しております。女性の社会進出が求められている中、女性が働くことは周囲の人の理解と協力なくしては大変厳しい状況にあり、継続することが難しいと思います。

私自身も、周囲の協力のお陰で仕事を続けることが出来ました。

造園の仕事はハードですが、お客様に喜んで頂いた時、この仕事をしてきて良かったと思います。今後も尚一層努力と精進をしていきたいと思っています。

所であれば継続できる建設業全体の退職金制度です。

掛け金は、損金・必要経費として、全額非課税となり、適切な履行で、経営事項審査の加点評価となり、事業主にとって人材の確保などにもつながり、労働者・事業主双方に有意義な制度です。

### 建退共制度のご案内

建設業退職金共済制度（建退共制度）は法律に定められた国の退職金制度で、簡単な手続きで加入でき、労働者は雇用される企業が変わっても建退共加入事業